

印刷情報メディアビジネス ：洋紙事業

洋紙（新聞用紙および印刷用紙）事業の起源は、1873年、渋沢栄一の提唱による抄紙会社の設立であり、王子グループの礎を築いた事業と言える。1910年から苫小牧工場の操業が開始され、新聞用紙の国内自給体制を確立。以降も、新聞用紙や印刷用紙を安定的に供給し続

け、日本の経済発展を支えた。その後も、軽量化、カラー対応、機能性の向上、環境対応など、時代の要請に合わせた紙の開発が行われ、今も進化を続けている。

1910



苫小牧工場

苫小牧工場操業開始

1910年6月水力電気工事完成、8月抄紙機稼働、翌9月営業活動開始、12月竣工、翌年5月18日に落成式を挙げる運びとなった。

1948



ブラッシュコーター

神崎製紙がアート紙生産工場として復活

戦時下に壊滅的な被災を被った神崎工場は、1948年9月、王子製紙から分離独立し、神崎製紙神崎工場として復活した。設立からわずか1ヶ月後には1号塗工機が稼働し、新生神崎工場での初めてのアート紙が生産された。

1949



新会社3社の社長(左から十条・西濱、苫小牧・中島慶次、本州・田辺武次)

3社に分割、再出発

財閥解体により、苫小牧製紙、十條製紙、本州製紙3社に分解決体された。

1952



第1期工事完成時の春日井工場

上質紙の販売開始

1950年代初期は戦後の混乱が収まり、出版物が大量に発行され始め、印刷用紙にも質が求められるようになった。1950年、春日井工場の操業開始をきっかけに、上質紙の販売体制を構築した。

1963



日南工場のゼロックス用紙のための小判カッター

ゼロックス用紙の開発

1962年、富士ゼロックスが設立されると急速に電子式複写機が普及した。これに対応するため、日本パルプ工業は、PPC用紙(ゼロックス用紙)の中厚物紙M紙を開発した。

1977



カラー印刷が多用される新聞

新聞用紙／軽量化

1977年(昭和52年)にはそれまで米坪52グラム(米坪=1平方メートルあたりの紙の重量)であった新聞用紙を米坪49グラムとし、以後、第2次(1979年～、米坪46グラム)、第3次(1989年～、米坪43グラム)、さらに(2000年～、米坪41グラム)と軽量化を進める。

1997



OKグリーン100シリーズ
パンフレット

「OKグリーン100シリーズ」の誕生

1990年代後半に入ると、環境保全への配慮を求める動きが大きくなり、古紙高配合の再生紙への期待が非常に高まった。この流れを受け、王子製紙は、古紙100%配合の再生印刷用紙「OKグリーン100シリーズ」を上質紙・塗工紙・微塗工紙で展開し発売開始した。

1996



OKプリンス上質
パンフレット

「OKプリンス上質」の誕生

高白色で不透明度と保存性に優れた中性上質紙へのニーズの高まりを受け、ニューOK上質紙(江別)、フェニックス(呉)を中性紙化し、サンフラワー(日南)も併せ、新銘柄「OKプリンス上質」としてブランド統合した。

1993



合併覚書調印時の
王子・神崎3首魁

合併効果、塗工紙ブランド統合

1993年神崎製紙と王子製紙が合併し「新王子製紙」となった。1995年4月には塗工紙生産体制の効率化・ブランド統合を図り、A2グロス品OKトップコート、A3グロス品OKコートLに統合した。

1990



苫小牧工場のN-2マシンのゲートロール

ゲートロール設置

新聞用紙マシンにゲートロール塗工設備を設置。1990年代までに新聞印刷方式が凸版からオフセット印刷に移行し、カラー化・高速化が進展するに伴い、新聞用紙に表面強度が求められるようになったため、塗工設備を導入し対応した。

1989



呉工場の5号マシン

上質紙「フェニックス」の生産開始

1985年に王子傘下となった東洋パルプは呉工場への上質紙マシンの増設を決定。89年に5号マシンとして完成し、上質紙(フェニックス)の生産開始した。これにより1989年度の上質紙売上比率は17%から35%に上昇した。

1981



やまゆり100現品(当時の70%品ではない)

再生紙「やまゆり」の開発

本州製紙は、1980年、神奈川県より古紙比率が高い再生紙の開発を依頼される。そこで、高白色度DIPを70%配合した再生紙「やまゆり」を開発。98年の都市ごみ問題で一躍脚光を浴び、再生紙ブームを巻き起こす先駆けとなった。

1998



苫小牧工場N-6マシン

N-6マシン運転開始

1997(平成9)年1月、苫小牧工場で新5号抄紙機(N-5マシン)以来18年ぶりの大型設備投資となる新聞用紙専科抄紙機=新6号抄紙機(N-6マシン)の建設に着手し、合わせて付帯のDIP設備や新事務所を順次着工した。

2001



PODシリーズパンフレット

世界初 オンデマンド印刷対応の高画質用紙

世界で初めてオンデマンド印刷に最適化した高画質用紙「POD(Print On Demand)シリーズ」を製品化した。

2004



OKトップコート+
パンフレット

優れたインキ速乾性を実現、「OKトップコート+」を上市

画期的な塗工紙設計技術により、印刷光沢発現性とインキ速乾性を高次元で両立したA2コート紙「OKトップコート+」を上市した。

2006



プラスニュースシリーズ
パンフレット

プラスニュースシリーズ上市

広告紙面の高級化など日々進化する新聞印刷に対応すべく、新塗工技術ファイナプラスコートおよびスーパーホワイトカーボンの開発により、高い裏抜け防止効果、良好なインキ着肉性、高いコントラストと良好な網点再現性を持ち合わせた新世代新聞用紙「プラスニュースシリーズ」を上市した。

2009



富岡工場N-1マシン

富岡工場N-1マシン営業運転を開始

薄物塗工紙の製品競争力強化のため、ワイヤーからスーパーキャレンダーまで一気通貫で仕上げるオールオンラインコンセプトの富岡工場N-1マシンが2009年2月より営業運転開始、A3コート紙と微塗工紙の生産をスタートさせた。

2022



王子製紙共通文庫用紙の共同開発

出版用紙の需要減退に伴い、業界に先駆けて角川春樹事務所、河出書房新社、筑摩書房、中央公論新社の出版社4社と当社にて「王子共通文庫用紙」を共同開発した。